

# GAP認証取得を目指した地域の取組

～GAPチームによる連携支援&GAP指導力の向上促進～

## 1. 活動の背景

### 空知管内のGAPの状況

- ・GAPの認証件数は、JGAP個人認証18件(農産17件・畜産1件)JGAP団体認証1件、ASIAGAP2件、GLOBAL G.A.P.1件(令和5年4月時点)となっている。
- ・SDGsやみどりの食料システム戦略などの情勢により、取引先企業のGAP認証農作物への関心が高まっている。
- ・JAながぬま白菜部会では取引先からのGAP認証取得の要望があり、将来的な団体認証取得を見据え、令和5年度はモデル農場2戸の個別認証取得を目指すこととなった。

### 対象農場へのGAP認証取得支援

農業者・JA・普及センターが連携し、モデル農場2戸のGAP認証取得を支援

### GAP指導力の向上促進

普及センター職員、JA職員のGAPに関する知識向上とGAP指導力向上を促進

### GAP認証取得へ

## 2. 活動の経過と成果の具体的内容

### 令和5年5月：認証取得に向けた農業者・JA職員・普及センターによる打合せ・農場巡回



GAPって何から始めて  
いいか分からない。

農業者

まずみんなで農場を見て  
改善が必要な場所の洗い  
出しをしてみましょう。



JA・普及センター



農場巡回

#### (2)農薬

・現在は貨物コンテナを利用して、扉を外して使用している。今後は屋外に新たに貨物コンテナを設置し、整理する予定。  
一鍵のかかる専用保管場所にて管理する。  
・農業専用のほうき、ちりとり、砂、ゴミ袋、農業ごとにトレイを準備し、こぼれた時のリスク回避をねらう。



現在の農業収納場所

#### (3)肥料

・白菜の箱詰め作業スペース横に保管されているため、交差汚染リスク回避を検討する必要がある。  
一作業スペースは大きな倉庫であり、開け閉めは困難と思われる。作業スペースから離れた場所に移動する予定。白菜への肥料の混入が無いよう対策を検討する。



農業者・JA・普及センターで  
GAPチーム結成！  
今後の取組について協議

管理点と適合基準に農場を  
照らし合わせて巡回者全員  
で改善方法の検討を実施

巡回結果は書面に整理  
し、JA・農業者へ提供

### 令和5年6～8月：帳票作成支援

サンプル帳票の提供・相談対応・連絡調整



普及センター支所  
GAPチームで連携

町内のGAP認証農場  
で使用している帳票の  
情報収集と提供

参考資料を基に  
農場に合った帳票  
を作成

改善提案内容を  
一覧にして農業  
者、JAへ提供



GAPチーム全員で  
帳票確認

J A 普及センター広域

## 令和5年5～12月：普及センター・JA職員のGAPの知識習得と指導力向上



GAPアドバイザーによる指導

隣接するJAそらち南にて、JGAP団体認証取得に向けたGAPアドバイザーによる指導が行われた

- ・JAながぬま、普及センター南西部支所の職員も出席
- ・管理点と適合基準の考え方や内部監査の進め方などを参考にする機会とした。
- ・普及センター南東部支所・南西部支所、広域主査、各JAで帳票作成や農場改善の事例を共有

関係者全員でGAP実践のレベルアップ！

## 令和5年10～11月：自己点検・不適合項目の改善検討・是正確認・本審査立会



自己点検(10月)

GAPチームで自己点検を実施  
5月の巡回で不適合となった箇所は入念に確認



普及センター

不適合箇所を整理し、GAPチームで共有



農業者

不適合箇所の是正



J A

不適合箇所の是正確認



初回審査(11月)

普及センターから7名が審査に立会  
審査員からの質問や指摘から、審査手法や自己点検のコツを学んだ

## 令和5年12月：モデル2農場JGAP認証取得

農業者の意識向上

普及センター・JA職員のGAP指導力UP

普段気付かない農場の問題やリスクについて考えることができた！



GAPを通して農薬の保管管理や農作物取扱いの意識が変わった！



管理点と適合基準の理解

帳票作成・農場改善の経験蓄積

団体認証に関する知識習得



## 令和6年1～2月：GAP普及推進に向けたGAP研修会開催



GAP報告会(1月)

モデル2農場のGAPの取組報告  
管内のGAP団体認証の事例紹介



GAP団体認証学習会(2月)

GAPアドバイザーよりGAP団体認証の取組ポイントを解説

GAPへの理解の変化は？(研修会後のアンケートより)

理解が進んだ 70% 30%

どちらかといえば理解が進んだ

理解が進まなかった 0%



農業者

GAP取組に対するハードルが下がったよ

部会・JA職員のGAP取組への理解が進んだ！

### 3. 今後の課題と対応

管内では本年度、JGAP団体認証1件、JGAP個別認証3件の初回審査が行われたため、維持審査に向けて支援を継続する。並行して、JAながぬま白菜部会の数年後の団体認証に向けて部会を対象としたGAP取組推進を引き続き行う。また、GAPに関心のある管内の農業者や関係機関への情報提供を行い、さらなるGAP推進を図る。